

ここが見どころ

★④円通院

境内には秋元家家臣の墓、芭蕉の句碑があります。

文化財

○円通院の梵鐘(市有形文化財)

家老の高山甚五兵衛朝繁によつて貞享3年(1686)に寄進されたものです。

○元坂の石橋(市有形文化財)



★⑦長安寺

ここはもともと郡内領主小山田氏の別荘地だったと言われています。文化財

○長安寺本堂

(県有形文化財)
享保10年(1725)に建立され、市内最大級の本堂です。

○長安寺の茶壺

(市有形文化財)
徳川家康より拝領したとされる、常滑焼の壺です。



★③東漸寺

境内には、芭蕉の弟子である高山伝右衛門繁文の句碑が建立されています。

文化財

○高山家の墓(市史跡)

谷村藩主秋元家に仕えた高山一族の墓石があります。

★②専念寺

文化財

○森島其進の墓(市史跡)

「甲斐国志」都留郡の部編さん者として有名な森島其進ですが「朋来園」という私塾を開いて弟子の教育にも努めました。

★⑨金山神社

近くの鍛冶屋坂にはその地名が示すとおり、昔、鍛冶師の集団が住んでいました。その鍛冶師たちの信仰を集めた神社です。

文化財

○金山神社の神輿(市有形文化財)

伊豆の名工小澤流の福田俊秀の手による彫刻が見事です。

★⑩普門寺

源頼朝が征夷大將軍になった翌年、建久4年(1193)に「富士の巻狩り」を行った際に武家の祠堂を建てたのが始まりとされています。

※巻狩り 大勢でかこいをせばめながら獲物を狩る、軍事訓練の性質を合わせ持った大規模な狩猟のこと。「富士の巻狩り」は征夷大將軍になった頼朝がその実力を世に示す政治的な示威行動であったと言

われている。

文化財

○雨宮六園の墓(市史跡)

六園は谷村興讓館の教授で、経義に通じ、詩文をよくし、名声が高かったとされています。

※谷村興讓館 天保13年(1842)に代官佐々木道太郎が民間有志と協力して、一般庶民教化のために谷村陣屋内に教諭所を設立した。郡内教育振興に尽くした功績は大きい。明治4年に公立小学校となった。谷村第一小学校の前身。

※経義 中国古代の知識や人格にすぐれた人物の教えを述べた書物の内容や意味、道理のこと。

ミステリーゾーン?

谷村地区に様々な民話が残されています。そのいくつかをご紹介します。

★⑦長安寺の一つ目入道

「若狭の市」という座頭按摩が少年時代に長安寺の大門前を通ると、一つ目入道が出て来て驚かせた。しかし、盲目であるため、全く驚かない。入道はこの大胆な少年にあきれ、
「俺は長安寺の一つ目だぞ」と言ったが、若狭の市は「俺は一つもないぞ」と言いながら杖を振り回し追い払った。



★①西涼寺の泣き櫓

西涼寺の儀秀稲荷を祀るため、寺にあった櫓を建造に使用することになった。寺の和尚はこの櫓にも命があるものとして供養のお経を呼んだところ、美しい女が現れて、泣きながら「この木を伐らないでください」と言ってキツネの姿になり、草むらに消えて行った。和尚はその不思議な出来事を村人に話し、櫓を伐ることを取り止めた。その後不思議なことに、どんなに晴天が続いても、この櫓の下は湿っており、木から雫が落ちてくるようになった。村人は命を救われた櫓が感謝して泣いているに違いないといい、この櫓を「泣き櫓」と呼ぶようになった。

★④義太夫狐

横町の若い衆が義太夫の稽古の帰りに女に出会った。その女は「自宅へ来て『葛が原の子別れ』を語ってもらえないだろうか」と言った。数名の若い衆は承知して女の後からその家に入った。座敷は20畳敷きの立派なもので一同に揃いの浴衣が出され、田舎としては豪勢なもてなしを受けた。その後「葛が原の子別れ」を語った。翌朝目を覚ますとそこはカンカン山(円通院の裏山)の頂きであった。しかし、不思議なことに浴衣もお膳も夕べのままだったので、あの女はキツネだったのでないかと言われるようになった。



参考文献 都留市の伝説 内藤恭義著
都留の民話 内藤恭義著